

スケアード・ストレートプログラムは犯罪をより招く



Air Force photo by Staff Sgt. Charles Rivezzo

スケアード・ストレート介入は、何もしないよりも、危害を引き起こす

このレビューのねらいは何か？

このキャンベル系統的レビューは、非行少年や犯罪犯す可能性のある子供へのスケアード・ストレートと同種のプログラムの効果を評価している。このレビューは米国で行われた9つの知見をまとめている。研究協力者には、14歳から20歳までの少年と若者を対象としている。9つ全ての実験研究で計946名の少年、若者が参加している。

スケアード・ストレート啓蒙プログラムは、非行少年や非行を犯す危険性が高い少年に、刑務所での暮らしや成人受刑者との交流を実際に体験することによって、犯罪や犯罪的行動を抑止することを目的としている。その目的とは反対に、スケアード・ストレートプログラムは犯罪の抑止はできず、減らすのではなくそれ以上の犯罪行動を招く。

このレビューは何についてのものか？

スケアード・ストレート・プログラムは、非行少年や非行を犯す危険性が高い少年—いわゆる虞犯少年—の刑務所訪問を企画し、参加させるものである。

スケアード・ストレートおよび類似のプログラムは、犯罪を犯すリスクのあるとされている子供たちが将来に行うであろう犯罪行為を阻止する犯罪抑制戦略として掲げられている。このレビューは、非行少年やその予備軍の犯罪行動に対する、これらのプログラムの効果を評価するものである。

どのような研究が含まれているのか？

このレビューに含まれる研究は、14歳から20歳までの青少年を対象として非行少年やその予備軍が刑務所を組織的に訪問するようことを含むあらゆるプログラムの効果検証である。無作為または擬似無作為実験デザインを用いて、介入を行わない対照群と「訪問後」の犯罪行動について少なくとも1つ以上の結果尺度をもつ研究のみが考慮された。

全ての研究で、アメリカ合衆国の異なる8つの州で実施されており、そのうち2つの研究はミシガン州で行われている。

系統的レビューには計9つの研究が含まれている。それら9つの研究はアメリカ合衆国の異なる8つの州で実施されており、2つ以上の実験研究を実施した研究者グループは含まれていない。



Air Force photo by Staff Sgt. Charles Rivezzo

このレビューはどのようにして更新されるのか？

本レビューは2011年12月までに刊行された研究を対象としている。また本レビューは2013年5月に公表されている。

キャンベル共同計画とは何か？

キャンベル共同計画とは、系統的レビューを公表する、国際的、任意的、非営利的な研究ネットワークである。われわれは、社会科学や行動科学の領域における取り組みのエビデンスの質を要約し、評価している。われわれの目的は、人々のより良い選択とより良い政策決定を支援することである。

この要約について

この要約は、Ada ChukwudozieとHoward White (Campbell Collaboration)によって執筆されたものである。またthe Campbell Systematic Review 2013:5 Scared Straight and Other Juvenile Awareness Programs for Preventing Juvenile Delinquency: A Systematic Review by Anthony Petrosino, Carolyn Turpin-Petrosino, Meghan E Hollis- Peel, Julia G. Lavenberg (DOI 10.4073/ csr.2013:5)の要約である。Tanya Kristiansen (Campbell Collaboration) 2より、要約のレイアウトと編集が行われている。この要約の制作にあたりthe American Institutes for Researchが資金援助を快諾してくれた。



AMERICAN INSTITUTES FOR RESEARCH

このレビューの主要な結果は何か？

スケアード・ストレート介入は、何もしない場合よりも、害のある効果がある。9つの研究で、その後の非行に対するスケアード・ストレートや同種のプログラムの有効性のエビデンスは何も示されていない。

さらには再犯率を報告している7つの研究の分析結果は、非行少年とその予備軍双方の側で、介入が犯罪を行う確率を有意に上昇させることを示している。

このレビューの知見は何を示唆しているか？

スケアード・ストレートや同種のプログラムは、有害な効果があり、介入しない場合と比較しても、非行を増加させる可能性が高い。

3つ研究では方法論的問題が報告されており、そのうち2つでは統計的分析についての示唆があるが、これは全体的な知見に有意な影響は与えるものではなかった。したがってスケアード・ストレート介入や同種のプログラムは、犯罪抑止策として推奨され得ない。しかし、万が一政府機関がそのようなプログラムを許可し続けるのであるならば、最低限、彼らが利益よりも害をもたらすことがないように、厳格な評価が推奨される。